

イレウス管の管理・目的

- ①イレウス管の固定
- ②排液状態の観察と管理
- ③電解質異常・脱水の観察と予防
- ④苦痛の緩和
- ⑤腸蠕動運動の促進

問題

腸閉塞と診断されて緊急入院したAさん。入院後、イレウス管を留置したAさんへの看護で適切なのはどれか

1. 飲水を勧める
2. ベッド上で安静とする
3. イレウス管は毎日交換する
4. 間欠的な低圧持続吸引を行う

ストーマとは

消化管や尿路を人為的に体外に誘導して造設した開放口（前者を消化管ストーマ、後者を尿路ストーマという 広義にはそのほかに生じた開放口～ろう孔も含む）



図1 消化管ストーマ



図2 尿路ストーマ

ストーマ造設後の身体変化の特徴



便意や尿意があればトイレに行く
図1 術前の排泄習慣

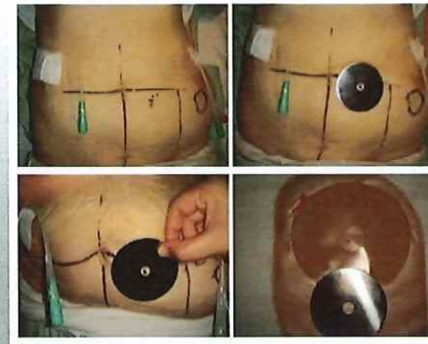


排泄経路が変わってしまう！

ストーマ造設前後のスケジュールと看護師の役割

手術前日まで	医師からの説明 術前オリエンテーション ストーマサイトマーキング	
手術当日	ストーマ造設 術後装具の装着	
術後1～2日	離床 ストーマと周囲皮膚の観察を兼ねた装具交換実施	
術後2日目以降	排泄があれば排せつ物の処理と 装具交換を患者もしくは介助者に指導を開始する	
手術後7～10日	ストーマの抜糸(しないこともある)	
退院までに	セルフケアの獲得の確認 装具購入の説明 身体障害者手帳の申請 入浴・シャワー浴の実施	

ストーマサイトマーキングの実際



消化管の解剖とストーマ造設となる疾患

- 下部直腸がんや肛門がんて直腸を温存できない場合
- がん以外では、先天性奇形 難治性再発性肛門疾患 肛門外傷などの肛門機能障害 炎症性疾患

消化管ストーマの種類

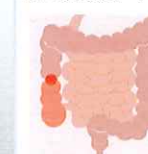
回腸ストーマ (イレオストミー)

腹部の中央に造られる
ことが多い、半流動状～
軟らかい便が排泄される
(泥状)

結腸ストーマ (コロストミー)

腹部の左側に造られること
が多く、形のある便が排泄
される(普通便)

盲腸・上行結腸ストーマ



横行結腸ストーマ



下行結腸ストーマ



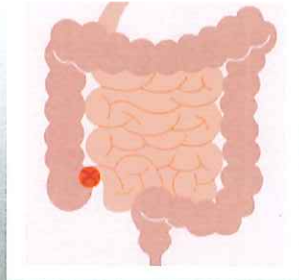
S状結腸ストーマ



消化管ストーマの種類

回腸ストーマ (イレオストミー)

- ・回腸末端の腸に造られ
(通常腹部の右側)
刺激の強い消化酵素を含む
水溶性(下痢)の便が排泄される。
- ・排泄物が皮膚に接触すると
皮膚障害が発生しやすい。



その他: 食道ろう・胃ろう・空腸ろう

各消化管ストーマと排泄物

	回腸 ストーマ	上行結腸 ストーマ	横行結腸 ストーマ	下行結腸 ストーマ	S状結腸 ストーマ
性状	水様				固形
量	多い				少ない
pH	高い				低い

排泄物が水様になると、ストーマ装具と皮膚の間に排泄物が入り易い為、排泄物漏れの原因となり易くなります。

排泄物の量が多いと、ストーマ装具の面板の溶解・膨潤が早まる可能性が高くなります。

排泄物のPHが高いと、アルカリ性の排泄物が皮膚を刺激し、皮膚障害が起こる可能性が高くなります。

消化管ストーマの形態

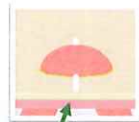
単孔式ストーマ



双孔式ストーマ

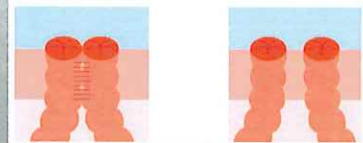


特殊式(ループ式ストーマ)

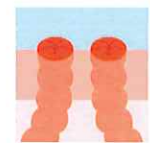


ループストーマの
ロッド

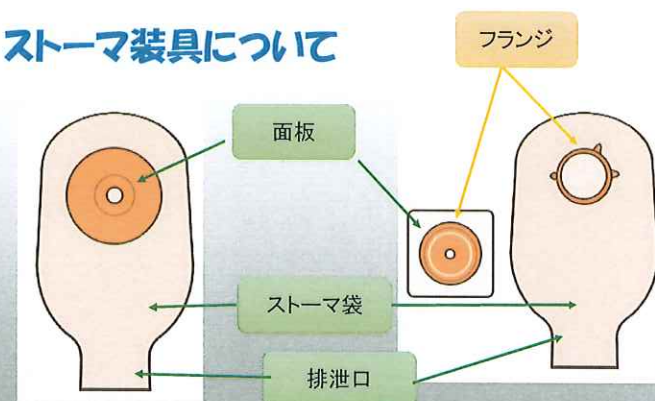
二連筒式ストーマ



完全分離式ストーマ



ストーマ装具について



単品系装具(ワンピース) 二品系装具(ツーピース)

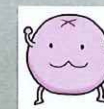
面板の形状について

	平面	凸面 (硬性・軟性)
形状	面板全体が平坦	面板の中心が突出
特徴	柔軟性に富み、腹壁になじみやすい	皮膚への密着性を高め、排泄物の潜り込みを防ぐ
適応	ストーマ周囲の皮膚にへこみがなく、標準的なストーマに選択	ストーマに高さがなく陥没しているなど一般的には10mm以下

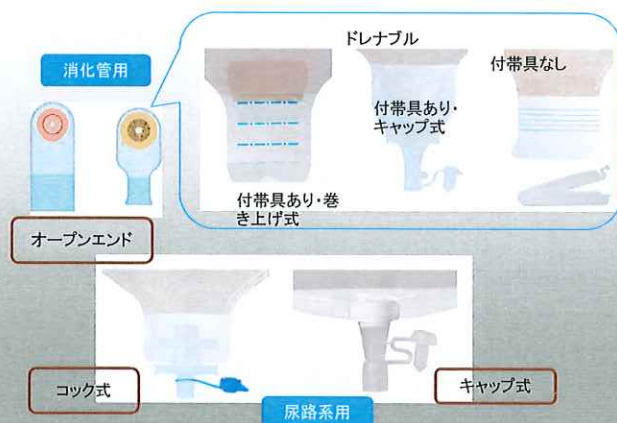


面板の役割

面板は主に①皮膚保護材②不織布テープ・粘着材③凸型はめ込み具で構成
保護材の役割は「排泄・分泌物の皮膚接触を防止し皮膚を生理的状态に保つ作用がある吸水性粘着材」



ストーマ袋の種類



装具交換のポイント



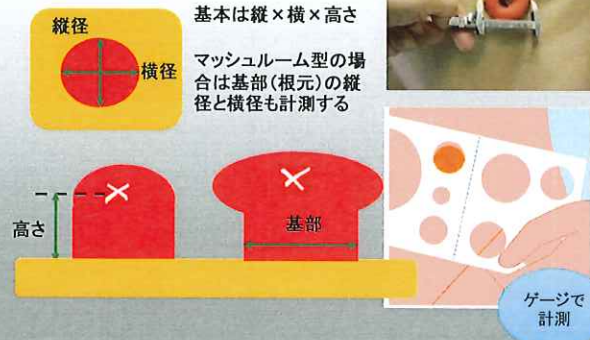
ストーマ装具を剥離する。
片手で皮膚を押さえながら、愛護的に剥離する。



ストーマ周囲の皮膚を洗浄際を用いて、洗浄する。その際、ストーマや皮膚をこしこすらないように注意する。洗浄したら、微温湯で洗浄剤の成分が残らないように洗い流す。

装具交換のポイント

ストーマの計測



装具交換のポイント



ストーマのサイズにストーマ孔を調整する。ストーマより1~2mm大きくする。



ストーマ装具を腹壁に貼付する。

適正な交換間隔の目安

ふやけたり、溶けたりが均一で、10mm以内が適正



10mm以上だと近接部の粘着力が低下し、皮膚障害のリスクが上がる！

装具をはずしたら後ろを見ましょう



ストーマ周囲の皮膚の観察ポイント



問題

ストーマのパウチ交換で適切なのはどれか

1. ストーマと同じサイズに面板を切る
2. パウチ周囲の皮膚はアルコールで拭く
3. パウチを装着する際は、患者は腹部を膨らませる
4. 内容物がパウチ容量の8割を超えたらパウチを交換する

問題

人工肛門を造設した患者へのストーマケアの指導内容で適切なのはどれか。**2つ選べ**

1. 装具の交換は便が漏れない限り不要である
2. 装具を剥がした時は皮膚保護剤の溶解の程度を観察する
3. 洗浄後のストーマはドライヤーで乾かす
4. 装具の穴はストーマと同じ大きさにする
5. 装具を貼る時は腹壁のしわを伸ばす